

春の叙勲

瑞宝小綬章（保健衛生功労）



石井病院長

石井隆司 さん(74) = 静内高砂町

石井さんは、昭和48年に石井病院を開設し40年以上の長きにわたり病院長を務め、日高管内全域の地域精神科医療の充実に尽力されています。

病院運営とともに障がい者支援、福祉サービス事業も運営し、保健、医療、福祉の連携にも力を入れ、地域医療、福祉の向上に貢献されています。また、日高管内初のサービス付き高齢者向け住宅も今後開設する予定です。

「受章は、職員や家族、周りで支えてくれた人たちのおかげで感謝しています。今後も健康に注意し、やり続けていきたい」と語りました。

瑞宝単光章（統計調査功労）



各種統計調査員

加野孝太郎 さん(78) = 三石美野和

加野さんは、農業を営むかたわら、農林業センサス調査員として昭和35年から平成27年まで計12回の調査に携わったほか、北海道農業基本調査、国勢調査など各種統計調査員として、延べ61回の調査に従事しました。

地域の情報に目を配りながら、調査のたびに入念な準備を行い、調査を続けてきました。

「受章の話が来た時には大変驚いた。受章できたのは地域の人に恵まれ、円滑に調査を行うことができたから。家族の協力にも感謝している」と語りました。

加野さんへの伝達は7月22日の予定です。

瑞宝単光章（消防功労）



元日高中部消防組合静内消防団副団長

野坂洋治 さん(72) = 東静内

野坂さんは、昭和46年に静内消防団に入団し、平成21年に日高中部消防組合静内消防団副団長で退任するまでの約38年間、災害発生時には率先して防ぎよの指揮にあたり被害を最小限にとどめ、地域の防災活動に尽力されました。

平成7年に発生した木材工場火災では、雪と強風の中、隣の寺の屋根から消火活動をするなど懸命な活動を続けられました。

「ここまでこれたのは、家族はもちろんだが、団員の理解や町民の応援があったおかげ」と語りました。

春の褒章

黄綬褒章（業務精励 広告美術工・卓越技能）



（株）細川好弘広告代表取締役

細川好弘 さん(79) = 静内御幸町

細川さんは、昭和29年から60年以上の長きにわたり、広告美術の技能研さんに努め、技能士の育成や技能士会の発展に尽力されています。

昭和42年に細川好弘広告を創業、新冠町のサラブレッド大型壁画、「北の零年」の大看板などを製作し、平成19年には、「現代の名工（卓越技術者）」に選ばれています。

また、北海道技能士会副会長や日高管内観光連盟会長など幅広い分野で要職を務め、地域振興に貢献されています。

「さらに技術を磨いて、生涯現役でいたい」と語りました。

危険業務従事者叙勲

瑞宝双光章（防衛功労）



元2等陸尉

森部 誠 さん(61) = 静内柏台

森部さんは、昭和47年に自衛官として自衛隊に入隊し、昭和48年から静内駐屯地に勤務。平成20年に定年退職するまでの長きにわたり、無人標的機や無人偵察機を飛ばすパイロットや整備業務に従事されました。

「昭和57年の浦河沖地震では、部隊当直に上番中で、当直室で地震にいました。静内橋が壊れ渡れなかったのと、橋の手前に岩で押しつぶされた軽自動車があったが中に人影はなく、ほっとしたのを覚えています。今回の受章は、歴代隊長を始め、上司や先輩、同僚、後輩、家族が支えてくれたおかげで感謝している」と語りました。

瑞宝単光章（消防功労）



元日高中部消防組合消防司令

千葉高良 さん(66) = 静内御幸町

千葉さんは、昭和43年に静内町消防本部に入り、平成21年に日高中部消防組合消防署長で定年退職するまでの40年間、消防体制の充実強化と消防施設の設備拡充に尽力されました。

「昭和44年に発生した大火で、延焼を食い止めるために夢中で消火活動を行っていたが、危険を察知した当時の署長に、倒れてきた壁から間一髪で助けてもらった。あの時そのまま消火活動をしていたら死んでいたかもしれない。受章は歴代の町長や先輩、同僚、後輩の支援、団員や町民の皆さんの協力があったこそ」と語りました。